# 貧乏！　不運！　不健康！　不幸の女神様ご降臨！（リライト）

境康隆

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

## 注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
貧乏！　不運！　不健康！　不幸の女神様ご降臨！（リライト）

【Ｎコード】
Ｎ５７２１Ｙ

【作者名】
境康隆

【あらすじ】
『幸不幸はあざなえる縄のごとし』　沢山不幸を味わえば、その分幸運も多く掴める――はず！　貧乏学生加納勝利は高校一年生男子。赤貧。底辺。低所得。　ある日貧相な巫女さん袴の少女きゅう姫と出会う。　きゅう姫は不幸の女神様。貧乏神の見習い学生。
だが今まさに落第寸前。更に人格消滅の危機を迎えていた。　更に現れたのは疫病神の少女と、死神の少女。　きゅう姫の落第を阻止する為、勝利は彼女達がもたらした、ある神様のグッズに手を出す。　貧乏！　不運！　不健康！　きゅう姫を救わんと、勝利は

今、自ら不幸へと飛び込んでいった。
（以前書いたものの、書き直しになります）

# 一、貧乏1

幸運の女神様には前髪しかない。だから見つけたら、すぐに掴まなくてはならない――

では――不幸の女神様は？

## 一、貧乏！

貧乏学生――加納勝利（かのうかつとし）は、己の財産となった大豪邸を前に茫然自失していた。

「だってリート――不動産投資信託――の銘柄に空売りを仕掛けたら、あっという間に資金繰りが悪化したらしいのよ！　元々ファンドからの資金で物件を建てて、またファンドに売るレバレッジを効かせたまくった経営で、キャッシュフローとか怪しいなって思っていたのよね！　それでちょっとつついてやったら、親会社の不動産会社が慌てて資本注入し出したわ！」

その勝利の隣では、オデコと眼鏡を光らせて、クラスメートの少女が何やら説明していた。

だが勝利はその少女の言うことが、まるで分からない。

オデコと眼鏡の少女は茫然自失の勝利を横目に、尚も理解不能な話を続ける。

「それとこのリートが参照対象のＣＤＳ――クレジット・デフォルト・スワップ――のプロテクションの買い手にもなってね。むしろクレジットイベント……つまり債務不履行や倒産――デフォルト――が起こった方が、スワップしてもらえるから、がぜん空売りに力入っちゃって……払ったプレミアムは高かったけど、ハイリスクハイリターンは世の常よね。禿鷹だとか。強欲だとか。恥を知れとか。ヘッジファンドが言われる理由が、少し分かった気がするわ。それ

でね親会社にも空売りを仕掛けたら、リートは見限られて破綻。巻き込まれたシンセティックＣＤＯもあったみたいだけど気にしないわ。シンセティックＣＤＯてのは、ＣＤＳを参照対象にした合成債務担保証券のことね。まあこれもレバレッジの一種ね。それはさておき、そんな訳でこの物件も、タダみたいな値段で売りに出されたのよ。思わず買っちゃったわ……」

オデコと眼鏡の少女は勝利が適当に相づちを入れると、まるでついていけない話を、一方的に話し続けた。

「――つまりなんだ……」

「つまりこれはあなたの家よ――」

勝利はオデコと眼鏡とは別の少女を見た。

髪の長い少女だ――

黒く艶やかな髪が、背中にスッと伸びている。

着ているのは『つぎ』だらけの赤と白の袴。そう、つぎはぎだらけの巫女さん袴だ。

まさに不幸の女神様に相応しい『つぎ』だらけの袴を着た少女。

この不幸の女神様の後ろ髪。それを掴んだ経緯。

加納勝利はそれを思い出そうとした――

「貧乏で悪いかよ！」

貧乏学生――加納勝利はそう叫びながら、路上でダイブした。通勤通学で人ごみ溢れる駅前だ。

「もらった！」

勝利は更に叫び上げると、鈍く輝くそれに飛びついた。

「お金！」

そうそれはお金。路上に落ちていたはした金。鈍く輝く小銭だ――

勝利を取り巻く通行人の驚いた視線。

道ゆくビジネスパーソン。掃き掃除に勤しむ近隣住民。駅前の人

ごみに期待して募金を集めているボランティアの人々。勝利と同じ高校の制服の集団――あまつさえ知っている顔すらあった。
勝利はそれをはね除けながら、いやむしろ航空力学にのっとってその視線を浮力にしたかのように、真っ直ぐお金に飛びついた。
だから勝利は今更軌道修正などできない。
たとえ空から槍が降ってこようが、鉄砲が降ってこようが、美少女が降ってこようが、勝利は今更止まることなどできないのだ。
「お金！」
そう。似たようなことを口走りながら、巫女さん袴の少女がこちらにやはり飛びついてきても――
「――てか、そこの男子！　どいて！」
その少女にお願いされても、今の勝利にはどうしようもない。
「えっ？　何だ！　女の子？　ぐわ――」
「きゃーっ！」
「なにくそ！」
勝利は路上に手を着く瞬間――全身で衝撃を感じた。だが勿論己の身より何よりも大事なのはお金だ。勝利はがしっと掴んだ小銭をこの衝撃の中でも離さなかった。
そしてその衝撃は激しくも、温かく柔らかかった。
そう――勝利は飛びついてきた少女に激突され、そのまま覆い被さられていた。
「ぐお！」
勝利は二人分の体重を一人で引き受け、己一人が地面と激突する。
「この……」
突然の衝突で混乱する中、勝利は小銭を掴んだ右手と反対側の左手でとっさに少女の身を支える。
二人でもつれて転がったが、地面との摩擦はそのほとんどを勝利が味わった。服の内と外を問わず、あっという間に勝利の肌に擦り傷が刻まれていく。
よりによって、巫女さん袴だと――

勝利は空転する視線の中で、僅かに見えた少女の姿に内心舌打ちをする。
このいたって普通の平日の通勤通学路に現れた少女は、何故かつぎはぎだらけの巫女さん袴を着ていた。
「いたたた……」
「痛いわね……」
やっと転げ終わった二人が同時に声を漏らす。
二人して地面に転げている。勝利から見て右手が下だ。勝利がかばったままの左手が少女の背中に上から回されていた。
少女もとっさにそうしたのだろう。右手を己の胸元で折り曲げ、勝利の制服の衿をぎゅっと掴んでいた。
そして二人の右手と左手はぐっと肩口から伸ばされ、しっかりと互いの掌と指を握り締め合っていた。
そう――互いにもう二度と離さないと言わんばかりに、がっちりと小銭を挟み込みながら――

# 一、貧乏2

「キャーッ！」
巫女さん袴の少女は勝利より先に我に帰ったようだ。
二人の互いの姿勢。衆人環視の路上での？添い寝？状態に慌てててその身を起こして、少女は慌てて路上に座り直した。
少女の長い黒髪が後ろ頭にスッと流れ落ちた。
狼狽したように身を起こした少女は、それでもその左手に掴んだ小銭は離さなかった。
だがそれは勝利も同じだ。がっつりと小銭を握ったまま転げていた。
周囲は先程の通行人が輪を作っていた。近所の人。募金を募っていたボランティアの人。オデコと眼鏡を光らせた制服の少女など。皆が半ば及び腰で心配げに近づいてくる。
「私が先に見つけたの！」
少女がそんな観衆を前にして、ヒステリックに叫ぶ。
気を失ったように倒れ込んだままの勝利。それなのに小銭は離そうとしないからだろう。
それを引きはがさんと少女が己の左手に力を入れた。
「それは……俺の台詞だ……」
勝利がゆらりと上半身を起こす。アスファルトの硬い路面に、傷ついた右手の肘を突く。勿論小銭は離さない。
「どっから見つけたって言うのよ？」
少女がきっと勝利を睨みつける。大きく明るい光を放つ瞳だ。
「……」
勝利の視線が一瞬その瞳に吸い込まれる。
「何よ？　言えないって言うの？　なら、私の方が先じゃない」
「――ッ！　何を？　俺はあそこの角から、もう見つけてたぞ！　五十メートルはあるね！　俺の方が絶対早かった！　あんな距離か

ら小銭を見つけられるのは、日頃から貧乏力を鍛えてる俺だけだね！」
勝利が惚けていたのを誤魔化すかのように、一息に捲し立てた。
緩みかけた右手に力を入れ直し、少女の左手ごと小銭を握り直す。
「何よ、貧乏力って？　てか、離しなさいよ。女の子の手よ」
「貧乏を力に変える何かだ。お前こそ離せよ。俺の小銭だ」
「何かって何よ？　わけ分かんないわよ。それなら私だって、それぐらいの距離から見つけてました。さあ、その手を離しなさい」
「何処からだよ。俺みたいに具体的に言えよ。信憑性がないぞ」
勝利と少女が二人して腰を浮かせた。互いに牽制し合いながら、それでいて隙あらば相手から小銭を奪わんと中腰になる。
「何処って！　ちゃんと上空五十メートルぐらいから――あっ！」
「上空？　何言ってんだ？　これだから巫女さん袴は信用できない！」
「何で、巫女さん袴だと信用できないのよ！　関係ないじゃない！」
「うるせえ！　個人的なトラウマだ！」
「そんなトラウマ責任持てないわよ！」
今や二人は完全に立ち上がり、お互いに離すまいと情熱的なまでに手を取り合った。
勿論離すまいとしているのは小銭だ。
「実際？上空五十メートル？とか、わけ分かんないこと言ってんじゃねえか！　空から落ちてきたったてのかよ？」
「――ッ！　そ、それは……とにかく！」
「？とにかく？　何だよ！」
「と、とにかく……」
「とにかくも何も――」
不意に別の少女の声がして、その声の主は勝利の手をがしっと握った。
「ん？」
勝利が怪訝に振り向くと、

「何を往来のど真ん中で、騒いでくれてんのよ？　身内の恥を曝されているこっちの身にもなって欲しいものだわ」
オデコと眼鏡を光らせて、女子高生らしき制服の少女が勝利を睨みつけていた。
「いたのか、魅優（みゆ）？　だが止めてくれるな！　今この小銭をこの女から取り上げて――」
「この女ですって？」
巫女さん袴のの少女がキッと瞳に力を入れる。勿論小銭を取られまいと指先に更に力が入ったようだ。
「？取り上げて？何？　女の子からお金取り上げて、自分はアパートから追い出されたい？」
魅優と呼ばれた少女は、目だけ笑って勝利に微笑みかける。
「ぼぼぼ、募金するところだから」
魅優に冷たい笑みを向けられた勝利は、慌てたように急に力の向きを変えると、
「キャーッ！」
悲鳴を上げる巫女さん袴の少女の様子も構わず、近くにいたボランティアの女性の募金箱に互いの腕ごと突っ込んだ。

## ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

---

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n5721y/

---

貧乏！　不運！　不健康！　不幸の女神様ご降臨！（リライト）

2011年11月21日23時49分発行